

# Hi! アンドしです

社会教育指導員  
アンドレ・エスタニスラオ

先月、私は夏休みの一部について記事を書きました。小野中学校の生徒とアメリカに行き「中学生の翼事業」を楽しんだことについて書きました。今月は、私の夏休みの続きを話したいと思います。それには2つの理由があり、過去の良い思い出について話をすることは素晴らしいと感じること、小野町がだんだん寒くなってきたので「夏」について書きたいと考えたからです。

私は「中学生の翼」が終了してから数週間後、夏休みをとり東京で友人たちに会い、さらに富士五湖周辺に遊びに行きました。私は新幹線で東京まで行き、友人に会いました。

東京から富士五湖までは、とても長い道のりでした。友人は、お盆の時期であったので、交通量を考え高速バスには乗らないほうが良いと言いました。そのため私たちは、新宿から富士五湖まで3台の異なった列車に乗りました。目的地に着くまでにはおよそ2時間30分かかりましたが、湖はもちろん全ての景色が非常に素晴らしかったので、長時間かけて足を運んだ甲斐がありました。周囲の山々と富士山のシルエットが、水面に映し出されていて富士五湖は本当に幻想的でした。また、私たちは富士山の近くにある氷洞にも入り、とても楽しい思い出を作ることができました。

富士へ旅行に行ったあと私は小野町に戻り、平成18年度田村地区英語弁論大会に向けて再び練習を

始めました。

私は小野中学校から大会に出場した生徒、そして浮金中学校から出場した生徒もまた一生懸命発表していたと、確信しています。弁論大会のために練習することは別に、塾やそれぞれのクラブ活動に最善を尽くしていた彼らを見て、その忍耐力や勤勉さにとても驚かされました。弁論大会は、非常に長いスピーチを暗記しなければならないだけでなく、彼らの気持ちや多くの感情を込めて発表しなければならないのでとても難しいことであると私は考えます。しかし、彼らは一生懸命上手に発表することができていました。

結局、私たちは最高賞を手に入れることはできませんでしたが、学業を全うするためにこの大会に参加した全生徒を、私は当然ながら誇りに思っています。



田村地区英語弁論大会のようす

## ふるよと小野町会 ふれあい通信

### 変わりゆくふる里

林 武次

(飯豊出身)

広報おのまち、小野高同窓会報、PTAあぶくま、ふるさと小野町会と町の情報がどんどん入ってくる今日このごろです。

遠くに生活していても、変わりゆくふる里の姿が写真と人々の話の中から手にとるようにわかり楽しませてもらっています。

昭和23年から飯豊中学校に入り高校3年まで6年間、第二のふる里として飯豊で時を過ごしました。その恩返しもできぬまま、昭和29年にふる里を出て横浜で50年、第一、第二、第三の人生を送らせてもらっています。

第二のふる里、飯豊村が小野町となり、町おこしに「ふるさと小野町会」が平成11年に発足し、私もその会員の末席を賜り、めざましい活躍に感激しております。

最近になって帰省して当時の面影をたどって飯豊を廻ってみたところ、道路はすべて舗装され、家並みも昔風はなく近代的家屋になり驚いてしまい、それに広いところに大きなマーケットが建ち、あぶくま高原道路、福島空港道路、インターチェンジと道路の変貌にも驚きました。当時、時間をかけて歩

いていたところが今では車で10分たらずです。時間の短縮は活動範囲が広がり、町の発展には大きい財産です。

思い出として、当時、つじ満開の高柴山に登り、反対側の矢大臣山のお祭りには友達と山頂をかつぼした思い出があります。それに東山山、杉並木が大木となり昼なお暗い様子を呈しており、その様子を絵にするために写生会をした覚えがあります。現在は羅漢様が並び今年も町長が建立した昭和羅漢も拝見することができました。

わすれかけていた飯豊がこんなに発展し町の活性化に若者が活躍していることに拍手を送らざるを得ません。特に東北の軽井沢とも言われ名付け親に感銘しております。

今後は我々の年代の人生卒業生が再生活の場として別荘になり、新築家を建て最後の地とする試みもよいのではないかと思います。

私は現在、先崎武会長から小野高東京(関東)支部を引き継ぎ支部長をしている関係上、小野高出身の東京方面在住者の総会出席をお願いする次第です。

変貌した我がふる里は、これからの若い人を活気付ける町でありたいと願っております。

